

## 海外でも ホームレス

### コスモポリタン ロックリアン

一、平成二十七年七月 イタリア・ミラノ

「う、美味しい！ 失業者と難民のための救済の食事がこんなにおいしいとは・・・」駅前広場で野宿中にパスポートやキャッシュカード等、貴重品を根こそぎ盗まれた私はギャング映画からそのまま抜け出て来たような強面（こわもて）の失業者の人達や眼光鋭いアフリカ系難民の人々と一緒に列に並び、地獄に仏のような温かい食事を有り難く頂いています。このままイタリアでくたばるのかも知れないと、不安で一杯だった中・・・

二、平成二十四年十月 東京 ｳホームレス生活の開始

父の遺してくれたお金を実家からの絶縁と共に手切れ金として受け取った私は、平成二十三年六月から約一年四ヶ月、アメリカとヨーロッパを周りました。当時四十五歳、いつまでも音楽を続ける私に実家の方は完全に愛想を尽かしていました。帰国後アパートを借りようと訪れた不動産屋で「緊急連絡先の無い人には貸せません」と言われ絶句しました。

「知、知らなかった！」こうしてホームレス生活が始まり、住所不定のためバイトできず、ただお金はまだあったので音楽ビデオを作ってはYouTubeに投稿してました。その内、作曲家として社会現象に興味ある私は、ユースホステルで会った西欧の人たちが言っていた“戦争とは武器販売と資源略奪のための巨大なビジネスである”という意見をアメリカの人はどう思っているのか知りたく、ロスアンゼルスへ向かいました。

三、平成二十六年四月 北米 ｳ海外でも路上生活

ところが当地はホステル意外と少なくとも満室、さあどうする？ 以前なら安ホテルを探したかもしれませんが、野外生活が板に付いていた私は真っ直ぐ公園へ・・・こうして外国でもホームレス生活が始まってしまいました。各都市の観光案内所へ着くとまずは、でかい公園と安いパンのあるスーパ－のある場所を尋ねるのが常となりました。ホームレスはどの辺で寝てるのかも聞きたかったのですが・・・さて、武器輸出に関しては、止むなしという人や、問題だがどの道彼らは死ぬんだ、ガハハと笑い出す人もいて失望しました。ちょっと驚いたのはニューヨークのハドソン河沿いのベンチで夕方目をさました時、靴の中に二十ドル札（二千円相当）が突っ込んであった事です。私は観光客だったのですが、大きな旅行鞆に防寒着を巻き付け、寝袋にくるまって横になっていると、地元ホームレスに見えるのか、「これ食べる？」「二十ドル札要る？」とか聞かれていたのですが、二十ドルとは！ 世の中には金余ってる人がいるもんだなーと呆れましたが、「中東の戦禍

で苦しんでいる人々にあげたらどうか」と、置き手紙を添え立ち去りました、様々な人種、色々な人生が詰め込まれた都市を、ぼんやりと赤く染めている、くすんだ夕陽を横目にしながら・・・

四、平成二十七年七月 ヨーロッパ（ミフノでの暗転）

帰国後、作曲を続けていた私はイギリスの人の意見も聴きたくなり、夏のロンドンへ赴きました。今回はホステルに泊り各国の人と話そうと意気込んでいたのですが、ウィンブルドンテニスのため空気が少なく、一泊約五千円に料金が跳ね上っていました。元々どちらかと言うと儉約家な方で、ホームレスになってからはそのセコさに拍車が掛かった私には、値が法外なものに思え、宿泊計画あっさりギブアップ、またしても路上生活・・・そしてイギリスの人達とは戦争経済について意見が一致したのですが、改善案は見つからず今回は失望ではなく虚無感に、まったりと包まれてしまいました。目的を失い、では大陸鉄道フリーパスを買って周るか、と方針変更した私は中途半端な気持ちで、湿った心を吸い上げて作ったようなどんよりとした雲の下、フェリーでドーバー海峡を渡りました。

フランス、パリの夜はロンドンよりも何か穏やかならぬものがありました。ウロウロしてる連中も何かやらかしそうな度二百%アップと言う感じで、ロンドンでは地元のホームレスの方々と私も同化してかなり寝れてたのですが、パリやマルセイユ、スペインでは良く寝付けず「せっかくだから一ヶ所でも多く行ってやろう作戦」の遂行中だったので昼は鈍行で移動に継ぐ移動、夜九時イタリア、ミラノに着いた時はかなりへばっていました。猛暑で三十五度はあったと思います。更にポルトガルに行こうとした時追加料金が要ると言われ「そうか、ポルトガルゆうんは貧乏人は来るなゆう国なんじゃの、そんなもんこっちから願ひ下げじゃ！」と激高し、スペイン、バルセロナから八時間かけてマドリッドまで行き、駅前まで寝るとんぼ返りをするとう阿呆な事をしたので精神的にもへこんでいました。駅前広場で横になっていると、なぜかレバノンの人が話しかけて来て「ここで寝ちゃ盗られるよ」と忠告しました。が、レバノンの方と話すのは初めてだったので勢い込んで政治について尋ねました。彼は多くを語らず代わりに、小さなリュックサック一つを抱えながら「俺はただ食って、ただ寝ている・・・」と哀し気に言いました。それは以前ニューヨークで見たギリシャに来たりビアからの難民の人のセリフと一緒にでした・・・彼が去り、興奮が冷め急に眠くなり上半身裸で寝込みました。いつもは体に巻き付ける貴重品の入ったポーチの事も忘れて・・・

朝四時頃我に返ると、「な、無い！ えっ？ えっ？ えっ？」パスポート、キャッシュカード入りの財布、作ってきた音楽や数千枚に渡る思い出や旅の写真のデータが入ったパ

ソコン等が盗まれていました。残ったのは衣類と食料と除いておいた日本円五百円が入っていたバッグのみ・・・被害届作成のため警察署へ人影まばらな紫色のミラノの街を「あーこれできっさきのレバノンの人と似た感じになっちゃったな」という思いを抱え、とぼとぼ歩きました。日本領事館を通じ銀行に問うとカードの再発行が出来ないとの事、特別に領事の方が食費を貸してくれましたが、どこで調べたのか「税金を払わずに自由にやってきた人に宿泊費は貸せません。野宿して下さい」と言われ、日本から送金が来るまで、イタリアで待つ事に、まあ元々ホームレスなので野宿については全く異存が無かったのですが、音楽器材を失ったのですする事なく困りました。領事の方は色々打開策を提示してくれ、「荷物取られた」「お金無い」「助けて」と、イタリア語を書いてくれて、公園でそれらを見せて物ごいをしたのですが結果が出ず、でも炊き出しの場所を教えて頂いたのは大ホームランで、難民用のIDカードを作ってもらい一日二回の温かい食事に有り付けました。しかも日替りメニューでポリウム満点・・・たまげました・・・しかも日本で主食にしていたゆで卵が出たのには感激でした。スープに無く生の六個パックだと暑さで傷むので断念していたのです。それからは今日も出ないかな？ と、わくわくしながら我が家（公園）から配給所へ通ったものでした。ただ問題が一つ、私は胃が弱く油こい物を食べすぐ動く激痛が走り、パスタ、ハンバーグ、ミートボール等普段食べ慣れていない物を摂ったので、十五分の距離を帰りは二時間もかかってしまいました。そこで取ったのが持ち帰り作戦！ 人目のつかない席を選びスーパーで買った食パンの袋へ、全部詰め込んでゆきます。時折り食べるふりをしながら・・・そして公園（家）に帰ってゆっくり頂くのです。

さて、今回一番書きたかった事なのですが、そそくさと食料を詰めている私の前に相席の人のトマトを握った手が伸びてきました。「俺の分だけど要るかい？」といった素振りです。全部料理を袋詰めしている人は他にいなかったもので、たぶん余程貧困に見えたのでしよう。物は受け取りませんでした。温かさはしつかり受け取らせて頂きました。そこに来ている人は失業者か難民で、余裕のある人はいないと思います。ニューヨークで二十ドルを入れてあつたのとはちよいと違います。最初に書いた様に、強面の人も一杯いて、敵意を持ってにらみ付けてくる人もいましたが、（食料には限りがあり新参加者が増えれば分け前が減ります。）温かい人もいる。何か荒地に咲いた一輪のひまわりを見ているような気になったものでした。他にも初日に、並んでいたにもかかわらず、最初はカードが要ると百メートル以上先の発行所まで連れて行ってくれた人や、「そうか盗られたのか、じゃーユーロ要るか？」と貧困のアフリカの人達へのユニセフ基金宣伝をしているにもかかわら

ず、お金をくれようとした公園で出会ったイタリアの人等、親切さも頂きながらなんとか帰国しました。

五、十月 東京 〱回想〱

ノド元過ぎれば何とかで、今となつてはあれ程脱出したかったミラノの街が懐かしく思えて来るのが不思議です。もしあの夜に戻れたら・・・もちろん私はなんとか朝まで寝ずに昼間仮眠を取り、旅を続けます。でも配給所での出来事は起こり得ず、あれはあれで自分的には珍しい体験だったので、O・ヘンリーの「運命の道」というと、ちよつといや、かなり大げさですが、何か複雑な想いにかられます・・・さて、十一月が近まり夜寒くなって来ました。「暖冬だといいな、二年前のあの史上に残る大雪、あがいなんがまたあつたらかなわんなー」と、恐れおののきながらも、「いや、あの配給所で出会った人々も頑張っているに相異なる」と、心にカツを入れながら作曲を続ける毎日です。

〈選評〉 タイトルを見ただけでのけぞりました。そして文章を読んで、そのスケールの大きな話さらに仰天。人生観が変わりました。ホームレスというより、国際移動生活者でもないったほうがよいくらい。難民の生活を体験されたわけですね。難民を受け入れる入れないで騒いでいる日本社会を、恥ずかしく感じます。私も、メキシコのバスターミナルで知り合った、アメリカでホームレスをしていたというメキシコ人のことを思い出しました。トマトのエピソード、心に沁みました。(星野)